

第3回プロジェクト未来遺産登録証書授与式

登録団体：NPO 法人ニッポンバラタナゴ高安研究会

プロジェクト名：「ニッポンバラタナゴを守る伝統的な溜池浄化法 “ドビ流し”の継承」

昨年の12月19日（月）、公益社団法人日本ユネスコ協会連盟主催「第3回プロジェクト未来遺産」にNPO 法人ニッポンバラタナゴ高安研究会のニッポンバラタナゴの保護活動が登録されました。そして今年の3月10日（土）には、授与式が大阪経済法科大学（花岡キャンパス）で開催されました。

●「プロジェクト未来遺産」とは

「プロジェクト未来遺産」は未来に伝えたい地域の文化・自然遺産を守る市民の活動を登録し、それを推進する地域を日本全体で応援する仕組み作りを目的としています。今年度は「危機にある遺産」と「生物多様性」を守る活動をテーマに全国の10プロジェクトが登録され、その一つとして当法人の活動が大阪府内として初の登録となりました。

●溜池浄化法 “ドビ流し”の重要性

今回登録された溜池浄化法である“ドビ流し”は高安地域の呼び名であり、全国的には“池干し”又は“かい掘り”と呼ばれています。溜池の底にはお風呂のように底樋（そこひ）と呼ばれる栓があり、それを抜くことでたまっていたヘドロを洗い流すことを“ドビ流し”と言います。昔は田畑の水確保のために溜池が利用され、ドビ流しも盛んに行われていましたが、近年ではニッポンバラタナゴの生息地である溜池は放置され水環境は悪化しています。そこで、当法人ではドビ流しや溜池の環境整備を行うことで、絶滅の危機にあるニッポンバラタナゴを含めた希少生物を守る活動がされており高安地域の生物多様性を促進しています。

●授与式当日の様子

授与式では当法人の加納義彦代表理事から地域の方々や関係団体に対する感謝の言葉、そして「八尾の自然遺産であるニッポンバラタナゴを100年後の子どもたちに継承するために活動を続けたい」という熱い思いをお聞きすることができました。活動当初はニッポンバラタナゴの繁殖が上手くいかず苦労もあったそうですが、今回の授与式を拝見して、市民活動団体も信念を持って地道に活動を続けた暁には、活動が実り公益を生みだすことが社会的に高い評価を得られることを強く感じました。

（取材：つどいスタッフ 西野 光）

「NPO 法人ニッポンバラタナゴ高安研究会」<http://n-baratanago.com/>



▲ドビ流しと底樋（そこひ）



▲授与式の様子



▲歓談で盛り上がる懇親会

復興支援！ みんなで買って！ 安全な福島のお米を食べよう！

“何かしなくては 何かできないか”と考えてしまいます。

今、私たちができることは・・・いろんな支援の方法があると思います。

そんな中、過日のNHKのニュースで放射性物質が検出されないのに福島県産の米というだけで・・・

そこで福島県産の“こしひかり”を購入し少しでも復興支援につながればと考えました。

八尾奥様フォーラムではそんな思いから“福島県産こしひかり”の購入を皆様に呼びかけることとなりました。

ぜひご賛同いただきたく存じます。

呼びかけ人・連絡先：八尾奥様フォーラム（宮崎伊都子）八尾市本町 5-8-32 TEL：072-922-7730

